

厚生労働行政推進調査事業費補助金（地域医療基盤開発研究事業）
（分担）研究報告書

外科領域における抜本的なタスクシフティングの手法についての研究
研究分担者 益田宗孝 横浜市立大学医学研究科外科治療学教室 教授

研究要旨

タスクシフトの一翼を担う特定行為を行う看護師の特定行為研修容の内容について議論を行い、現在の38行為から外科術後病棟管理において必要な9項目を抽出後に研修のパッケージ（案）を作成し、厚生労働省に提出した。2018年12月5日に開催された第19回医道審議会保健師助産師看護師分科会看護師特定行為・研修部会で内容について議論され、その後了承された。また、手順書の先行事例を参考にしながら、クリニカルパスをベースとした包括指示書（案）を作成した。

A．研究目的

本研究においては、平成29年6月に閣議決定された「経済財政運営と改革の基本方針2017」において、医療現場におけるタスク・シフティング（業務の移管）等を推進することとされていることも踏まえ、外科領域における抜本的なタスク・シフティングの手法について研究することで、外科医等の働き方改革を進めることを目的とした。

B．研究方法

一般社団法人日本外科学会外科医労働環境改善委員会との連携及びNCDのデータを活用し、タスクシフト推進に係る現状調査及び推進案について検討する。

C．研究結果

一般社団法人労働環境改善委員会と合同の会議を行い、外科術後病棟管理における特定行為群研修内容のパッケージ化内容について検討し、改定案を作成した。改定案は2018年12月5日に開催された第19回医道審議会保健師助産師看護師分科会看護師特定行為・研修部会で内容について議論され、その後了承された。また包括指示書については、公開されている手順書の先行事例等を参考にしながら、クリニカルパスをベースとした包括指示書（案）を作成した。また、クリニカルパスがない場合のタスクシフトについても検討した。待される。

D．考察

包括指示書（案）作成においては、施設毎に医師数、看護師数やその専門性等がなることから、本研究班では、各施設が各々の状況に鑑みて指示書をカスタマイズできるよう、一律な指示書を示すのではなく、あくまで一つの例示として作成することを心がけた。また、クリニカルパスが施設に無い場合においても、例えば、気管tubeの位置の確認等の各特定行為についても、指示書を整備してタスクシフトを進めていく必要があると考える。

E．結論

今後は、本研究班の示した成果物を参考にしつつ、安全面に配慮した抜本的なタスクシフトを推進していくことが期待される。

F．健康危険情報

総括研究報告書に一括記載

G．研究発表

1. 論文発表 なし
2. 学会発表 なし

H．知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む。）

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし